



# 田無神社

## 神無月

### 第44号

発行所  
田無神社社務所

〒188-0011  
東京都西東京市田無町3-7-4  
TEL 042-461-4442

編集発行人  
賀陽智之

## 令和7年 田無神社例大祭のご案内

例大祭につきまして、総代・世話人会での審議の結果、宵宮は10月11日(土)、本宮は10月12日(日)に斎行されることとなりました。宵宮では龍神神輿および女神輿の渡御を、本宮では本社神輿および子供神輿の渡御を執り行う予定です。舞殿での演芸の詳細につきましては、田無神社公式HP内の「お知らせ」欄よりご確認ください。

### 【宵宮】

10月11日(土) 午後8時より、社殿にて宵宮祭を斎行いたします。龍神神輿および女神輿は、午後5時30分に御飯屋を出御し、午後7時30分に田無神社立体駐車場2階入口へ還幸いたします。

### 【本宮】

10月12日(日) 午前10時より、社殿にて例大祭の祭典を斎行いたします。

本社神輿は、午前10時45分に

社殿前を出御し、午後3時45分に還幸いたします。還幸後、境内参道にて、午後4時より第1回目の宮入道中神事、午後4時20分より第2回目の宮入道中神事を行います。還幸祭は、午後4時30分より社殿にて斎行いたします。

### 【宮入道中神事】

10月12日(日) 午後4時からの宮入道中神事では、本社神輿が境内参道を威勢の良い掛け声とともに2往復いたします。社殿への還幸時には、神社関係者が神輿に向かって紙吹雪を撒き、神輿を祓い清めます。



宮入道中の紙ふぶき

なお、安全対策として、神輿渡御の間は境内参道両脇にロープを設置し、ご参拝の皆様の間を一時的に制限させていただきます。ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

神輿役員紹介

- 祭典委員長 濱野智治殿
- 祭典副委員長 中村勇殿
- 祭典副委員長 鴨志田隆殿
- 祭典副委員長 新井浅浩殿
- 祭典副委員長 村田恭男殿
- 神幸委員長 村田建三殿
- 境内委員長 岡部長敬殿
- 太鼓委員長 細田勇雄殿
- 神幸相談役 下田信助殿
- 神幸相談役 石井重夫殿
- 神幸副委員長 鵜野義雄殿
- 神幸副委員長 常田青児殿
- 神幸副委員長 清水正幸殿
- 神幸副委員長 小林孝幸殿
- 境内副委員長 大澤力殿
- 境内副委員長 中野恭一郎殿
- 境内副委員長 並木善衛殿
- 太鼓副委員長 濱野祐次殿
- 太鼓副委員長 行橋良和殿
- 太鼓副委員長 長谷川多一殿
- 御旗 松川武司殿
- 御旗 小泉吉男殿
- 御旗 安田庄次殿
- 御旗 中野敏男殿
- 鉄杖 大谷辰夫殿
- 鉄杖 矢ヶ崎宏行殿
- 会計 海老沢進殿
- 会計 肥沼岳行殿
- 奉納受付 松川正秀殿
- 神幸委員 野口勉殿

- 神幸委員 尾林長承
- 境内委員 笠原末雄殿
- 境内委員 新井鉄夫殿
- 境内委員 下田二三四殿
- 境内委員 下田富盛殿
- 境内委員 濱野博殿
- 境内委員 鵜野文夫殿
- 境内委員 大谷光康殿
- 境内委員 平山眞栄殿
- 境内委員 岡部忠明殿
- 境内委員 大谷孝良殿

感謝 担ぎ手警備諸団体

アスタ専門店街出店者会・株式会社アスタ西東京・極真空手田無道場・警視庁田無警察署・三榮神輿保存会・三榮神輿保存会花風舞綺・サンサービス・田無北口商店会・田無北口商店会花水貴・田無地区交通安全連合会青年部・田無商業協同組合・田無神社維持費奉納崇敬者・田無神社氏子青年部・田無神社職員会・田無神社職員つむぎ会・田無神社崇敬会・田無神社世話人会・田無神社総代会・田無神社奉賛会・田無神社奉仕団・田無囃子保存会・大栄商店会・第4区本町会奉賛会・東京信用金庫田無支店・西東京市交通安全協会・西東京市消防団・西東京青年会議所・西東京市防犯協会・橋場商店会・保谷和太鼓会・柳沢津嶋神社

敬神会・柳沢文化財保存会・六商協議会半纏保存会  
(五十音順・敬称略)

宮太鼓の修復工事について

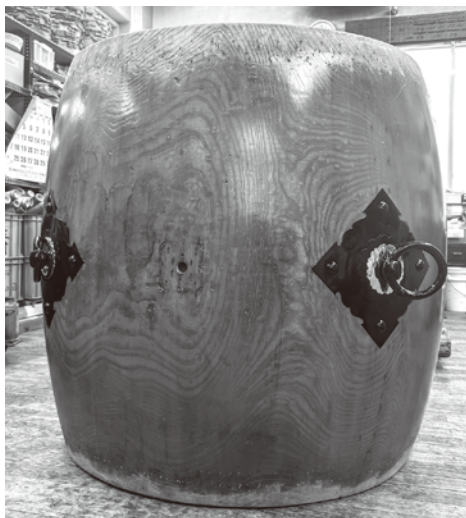
宮太鼓は、昭和17年(1942年)に、浅草の宮本卯之助商店により奉製されたものです。このたび、80年以上にわたって使用されてきた宮太鼓に対し、初めての大規模な修復工事を行いました。台車には新たにブレーキを取り付けるなど、安全面にも配慮した改修が施されています。

これまで、革の張り替えは昭和21年(1946年)、昭和29年(1954年)に行われており、今回の張り替えは実に71年ぶりとなります。また、太鼓の胴や台車に関する修繕は今回が初めての実施です。

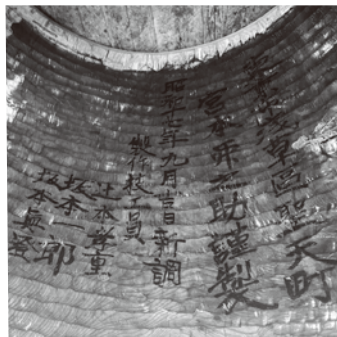
修復を終えた宮太鼓は、10月4日(土)に打ち始め式を執り行う予定です。

なお、近年の太鼓に関する修繕工事としては、令和4年に完成した向台大太鼓、令和6年に完成した天神社宮太鼓に続き、今回が3件目

となります。



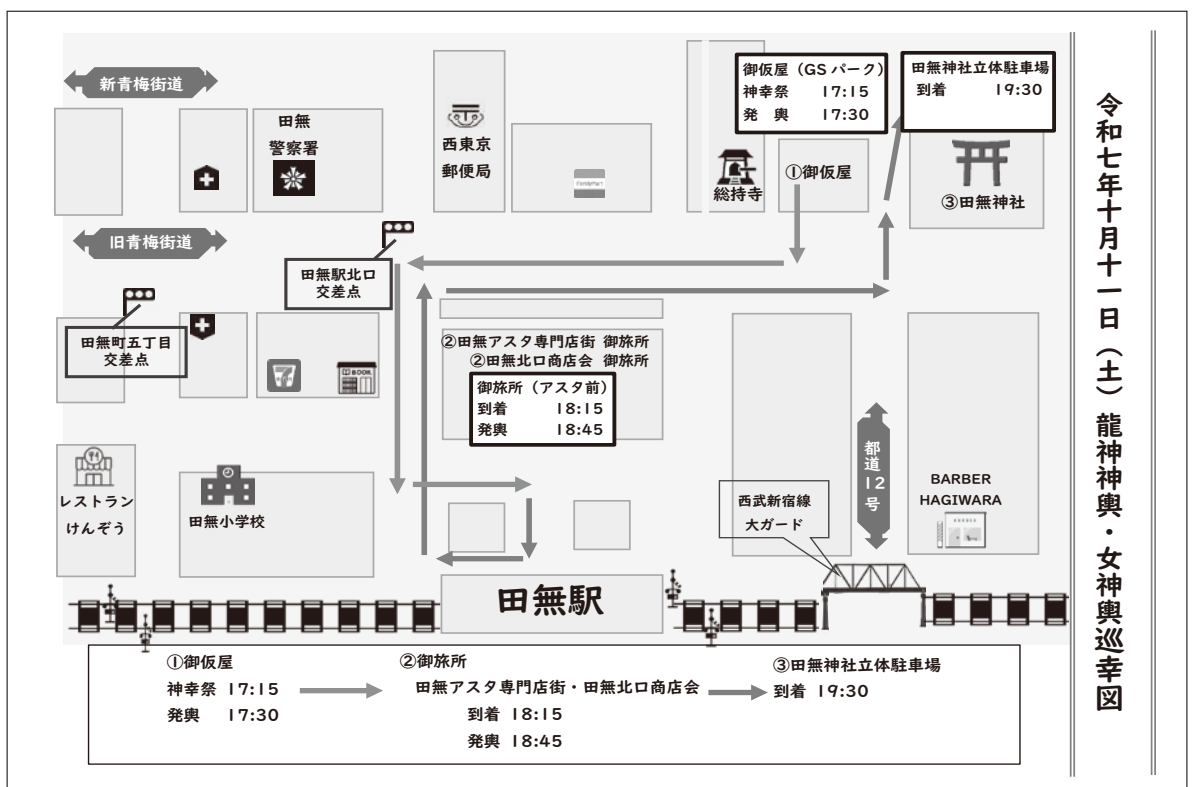
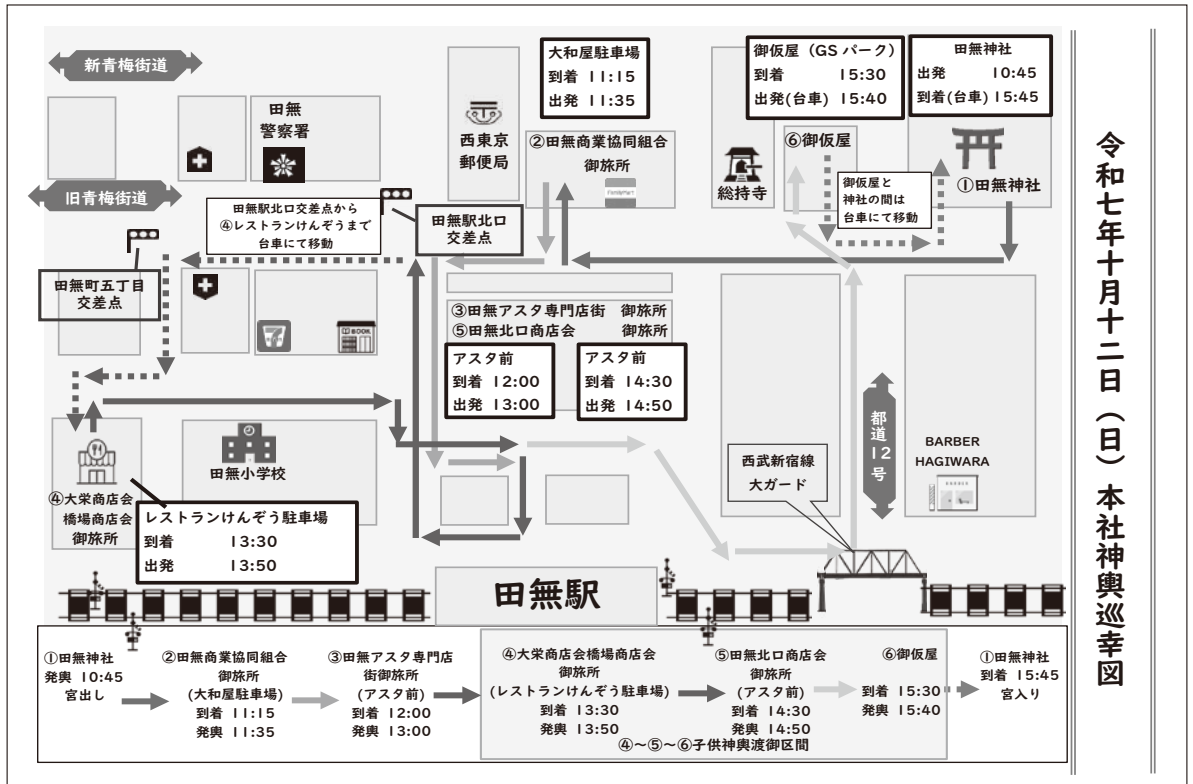
宮太鼓の胴



太鼓の胴内



昭和17年 宮太鼓芳名簿



## 子供神輿担ぎ手募集

10月12日(日) 午後1時50分出御

田無神社例大祭の「10月12日(日)」に子供神輿を出します。

小学校3年生から6年生のお子さん先着100名が担ぐことができます。

次の項目をよく読んでふるってお申込みください。みんなでお祭りのお神輿を担ごう！

〔参加学年〕 小学校3年生、4年生、5年生、6年生

〔参加費〕 無料

〔申込期間と方法〕 9月13日(土)～10月5日(日)の間に田無神社社務所へ電話して申込み  
(電話番号042-461-4442)

※先着100名が担ぐことができます。

※お名前・電話番号、学年を伝えてください。

〔10月12日(日)の集合時間・場所〕

①集合時間・場所 10月12日(日) 午後1時30分までにレストランけんぞう入口前の受付  
(西東京市田無町6丁目16-13) 受付で「はんてん」をお貸しします。

〔神輿ルートとタイムスケジュール〕

午後1時50分レストランけんぞう出発→午後3時30分旧福澤屋駐車場(GSパーク駐車場)到着  
※旧福澤屋駐車場(GSパーク駐車場)到着後、はんてんと交換にお菓子をお渡しします。

## 子供神輿規約

- 一. 担ぎ手は子供神輿責任者の指示に必ず従うこと。
- 一. 申込期間内に所定の申込み方法で申し込んだ者のうち、先着100名が担ぎ手として神輿を担ぐことができる。
- 一. 付き添いの家族等は神輿から離れて歩道から応援する。
- 一. 当日の所定の集合時間に集合場所ではんてんを貸与する。
- 一. 神輿を担ぎ終わったらはんてんを返却する。
- 一. 荒天の場合は中止する。  
その場合は前日までに田無神社ホームページで案内する。
- 一. 神輿巡幸の際のケガ等について、応急処置はするが神社は責任を一切負わない。

# 田無神社農園

田無神社農園で野菜の収穫

田無神社農園にて、真夏の陽を浴びて育ったトマト、ミニトマト、ナス、ピーマン、枝豆を収穫し、夏越の大祓やお人形感謝祭などの祭典において、ご神前にお供えいたしました。

田無神社農園では、下田農園の下田将人氏のご指導のもと、四季折々の野菜や果物を心を込めて栽培し、祭典や行事の折にご神前へ奉納しております。今後も、農園での栽培の様子や収穫の模様を、田無神社公式ホームページおよびSNSを通じて随時ご紹介し、地域の皆様とともにその恵みを分かち合っております。



収穫した野菜

## 龍神池レポート

生命が宿るビオトープ

### 第12回 「埋土種子のふしぎ」

埋土種子とは、発芽に適した環境が整うまで、土の中でじっと眠り続けている種子のことを指します。中には非常に寿命が長いものもあり、数十年後に芽を出すことも珍しくありません。

「昔はたくさんあったのに、今ではほとんど見かけなくなった植



シャジクモ

物——実は、その種が今も土の中で生きている可能性があります。そんな土をそっと掘り起こし、発芽に適した環境を整えてあげると、まるで自然のタイムカプセルを開けるように、植物が姿を現すこともあるのです。

調査・監修 NPO birth



コナギ



オオシオカラトンボ(幼虫)

#### ◎ 今回の調査で見つかった主な生きもの



モツゴ



シオカラトンボ  
【幼虫】



コセアカアメンボ



ナミテントウ



シャジクモ  
希少性：環境省レッドリスト  
絶滅危惧II類 (VU)

※☆マークは生きもののレア度を表しています。☆☆が最高ランクになります

龍神池の生き物たち

シリーズ「神社と戦争」

第4回 終戦80年企画

太平洋戦争(大東亜戦争)

令和4年(2022年)に刊行された御遷座三五〇年記念誌「写真と資料から見る田無神社」は、田無神社の長い歴史を、貴重な写真や資料を通して振り返る構成となっております。なかでも第8章「神社と戦争」では、田無神社と戦争との関わりについて、当時の祝詞や関連資料を紹介しています。本社報(第44号)では、終戦80年企画として、記念誌刊行後の倉庫調査によって新たに発見された資料をご紹介します。

これらの資料には、戦時下における神社の役割や当時の様子が記録されています。戦争がもたらした悲しみや苦しみに直面しながら祈りを捧げ続けた人々の姿を、今に伝えることは、平和の大切さを再確認する大きなきっかけとなるはずです。田無神社が果たしてきた役割、そして当時の人々の思いに、心を寄せていただけましたら幸いです。

本社報では、「召集令状」「映画興行申請書」「戦時下における祭典実施指針」「神社境内の樹木供出に関する件」「神社所蔵の刀剣に関する件」「新嘉坡陥落奉告・大東亜戦争完遂祈願祭の執行の件」「金属特別回収に関する件」「戦争終熄奉告祝詞」「御本殿塗替記念札」「終戦10周年祖国復興祈願祭」「GHQによる必勝札・武運長久札等の廃棄の指示」「教練銃」「敬神美談に関する件」の13点をご紹介します。

『社掌(宮司)に招集令状』には、当時の田無神社社掌(宮司)・賀陽賢司に召集令状が届き、田無神社の例祭日に出征することが記されています。日々の務めを抱える中で、どのような思いを胸に戦地へ向かったのかを想うと、胸が締めつけられる思いがいたします。

終戦後、賀陽賢司宮司によって戦争に関する資料の大部分がお焚き上げされたと伝えられています。

今回の調査により、その背景には、『GHQによる「必勝札・武運長久札」等の廃棄の指示』に見られるように、札類の廃棄がGHQに求められたことが判明しました。このことから、当時の価値観が大きく転換していった様子がうかがえます。興味深いことに、終戦までの資料は整理されている一方、終戦後の資料のいくつかは、この資料を含め、封筒に入ったまま段ボールの下敷きになっているものも見つかりました。こうした保管のされ方からも、時代の変化と、その中で抱えていた複雑な心情の一端が感じられます。

昭和14年(1939年)、ヨーロッパで第二次世界大戦が勃発しました。翌昭和15年(1940年)、日本はドイツ・イタリアと日独伊三国同盟を結び、さらに昭和16年(1941年)4月には、ソ連との間に日ソ中立条約を締結します。一方で、日本はアメリカ・イギリスとの対立を深め、戦争へと突入していきました。資源確保を目的に、東南アジアへの進出に活路を見出そうとし、昭和16年(1941年)、東條内閣のもと、日米開戦に踏み切ります。こうして、日本は太平洋戦争(大東亜戦争)に

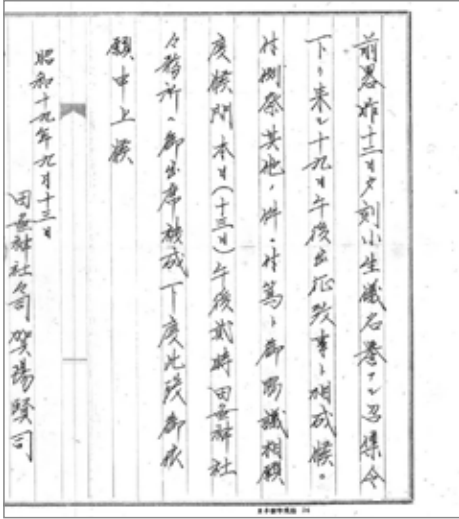
突入していきました。

当時の田無地域は軍需工場が集まる重要拠点であり、戦火の影響を大きく受けました。昭和19年(1944年)11月24日には、中島飛行機武蔵製作所がB29の爆撃を受け、大きな被害を受けます。この爆撃は東京を標的としたB29による最初の空襲ともいわれています。昭和20年(1945年)に東京大空襲が始まると、田無地域への空襲は一層激しさを増していきました。同年4月2日には、中島飛行機を狙ったB29の爆撃で、現在の西東京市域において約80名が命を落としました。さらに10日後の4月12日には、爆撃の標的が大きくなり、1トン爆弾が田無駅前などの市街地に落とされ、100人を超え犠牲者を出す惨事となりました。そして終戦間際の7月29日、西武柳沢駅南側にも大きな爆弾が投下されます。後年の調査により、この爆撃は原子爆弾投下の訓練として全国50か所で行われた作戦の一環であったことが明らかになっています。こうして記録をたどると、田無神社とその周辺地域が、戦時下の日本においてどれほど深く戦争と関わり、また多くの苦難を経験してきたかが浮かび上が

ます。これらの歴史を今に伝えることは、過去を知り、平和の尊さを未来へつなぐために欠かせないことでしょう。

### 召集令状

昭和19年(1944年)9月12日、当時の田無神社社掌(宮司)であった賀陽賢司に召集令状が届き、同月19日午後に出征することとなりました。これを受けて、田無神社では総代に対し、翌13日午後には社務所へ集合し、今後の例大祭の運営などについて協議を行うよう呼びかけました。なお、田無神社の例大祭は9月19日に予定されており、出征日と重なっていました。



召集令状

昭和19年(1944年)9月、日本は太平洋戦争において苦境に立たされており、ペリリュー島では日本軍とアメリカ軍の間で熾烈な戦闘が行われ、フィリピン方面でも戦闘が本格化し、戦争の影は徐々に日本本土へと迫りつつありました。

### 映画興行申請書

この文書は、田無神社境内で行われた映画上映に関する申請書です。上映会は讀賣新聞社の主催により、昭和17年(1942年)7月7日の午後7時から午後10時までの3時間にわたり実施されました。上映された作品は『讀賣ニュー

ス第161輯』『164輯』『漫画マー坊太閤記』『表日本唄の旅』『銀之丞出現』でした。

戦前のニューズ映画は、国家の検閲を受けたうえで制作され、軍事訓練の様子や戦果の報告などを取り上げることで、国民の意識を統制し、士気を高めることを目的としました。「漫画マー坊シリ

ズ』は、戦前に制作された国策アニメーション映画です。『銀之丞出現』は、主人公・銀之丞がヒー

ローとして活躍する姿を描いたアクション時代劇です。

種別	氏名	免許番号	上映日	上映時間
神血榮雄	高田泰雄	九八八	昭和十七年九月五日	午後七時
高田泰雄	高田泰雄	九八八	昭和十七年九月五日	午後八時
高田泰雄	高田泰雄	九八八	昭和十七年九月五日	午後九時
高田泰雄	高田泰雄	九八八	昭和十七年九月五日	午後十時

申請書

田無神社 宮司 賀陽賢司

申請書 昭和十五年 七月 廿六日

代理人 竹中法工

主催 讀賣新聞社

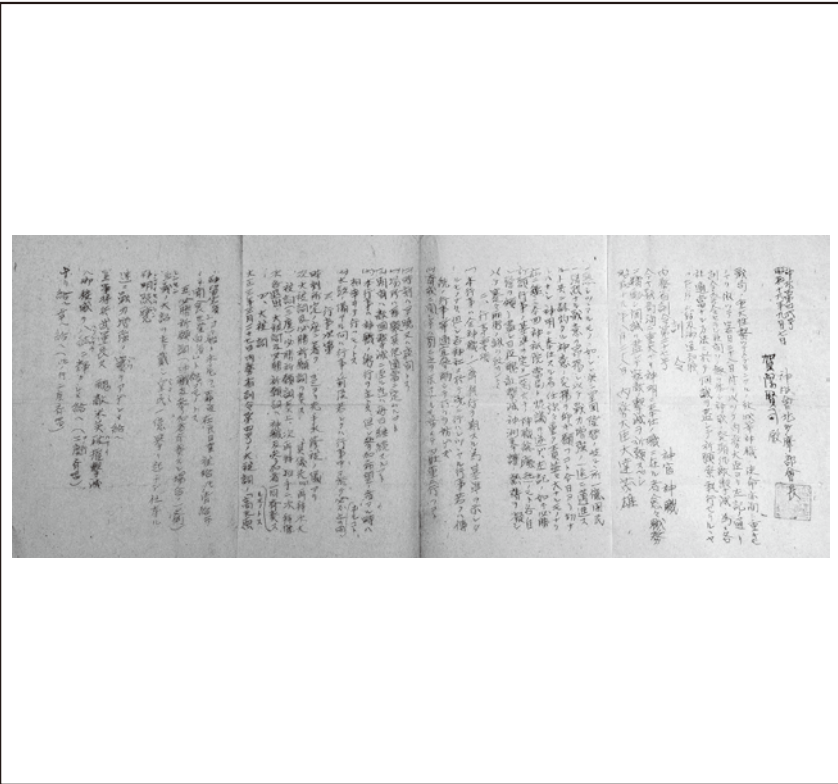
監督 高橋豊吉

映画興行申請書

# 戦時下における祭典実施指針

この文書は、内務省訓令第27号を受けて、昭和19年（1944年）9月7日に神祇會北多摩部会へ発出された通達であり、国家総動員体制下において、各神社で齋行すべき「必勝祈願」の祭典の内容を

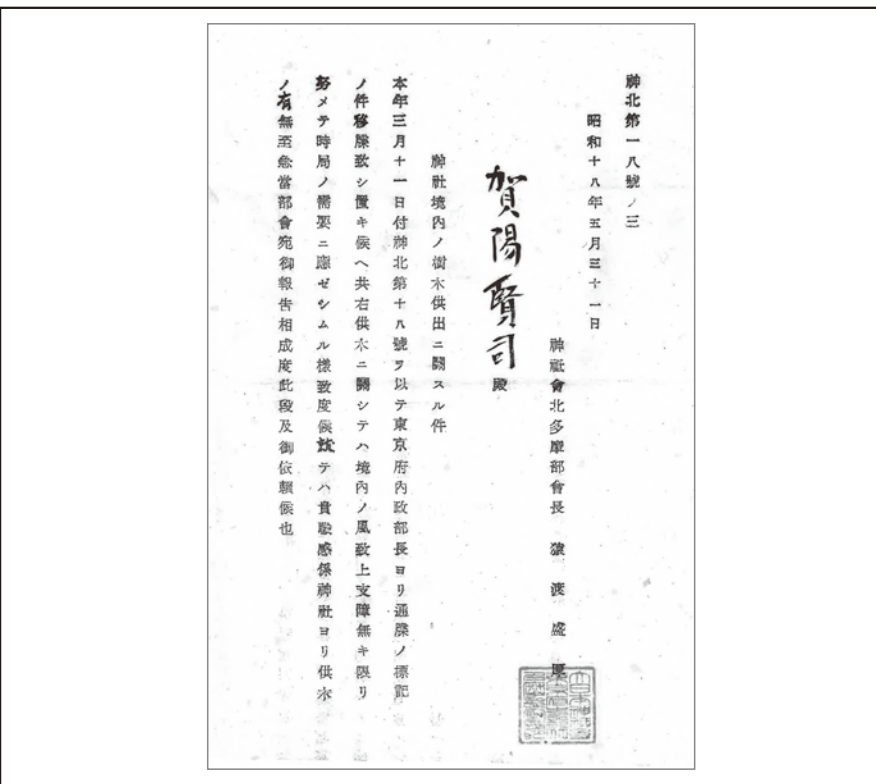
具体的に示したものです。祭典は早朝または夜間に毎日行い、「大祓詞」を三巻奏上したのち、「必勝祈願詞」を奏上するよう指示されています。



# 神社境内の樹木供出に関する件

この通知書は、昭和18年（1943年）5月に戦時下における資源供出の一環として、神社境内の樹木を供出できるかどうかの確認を求めた調査依頼です。境内の風

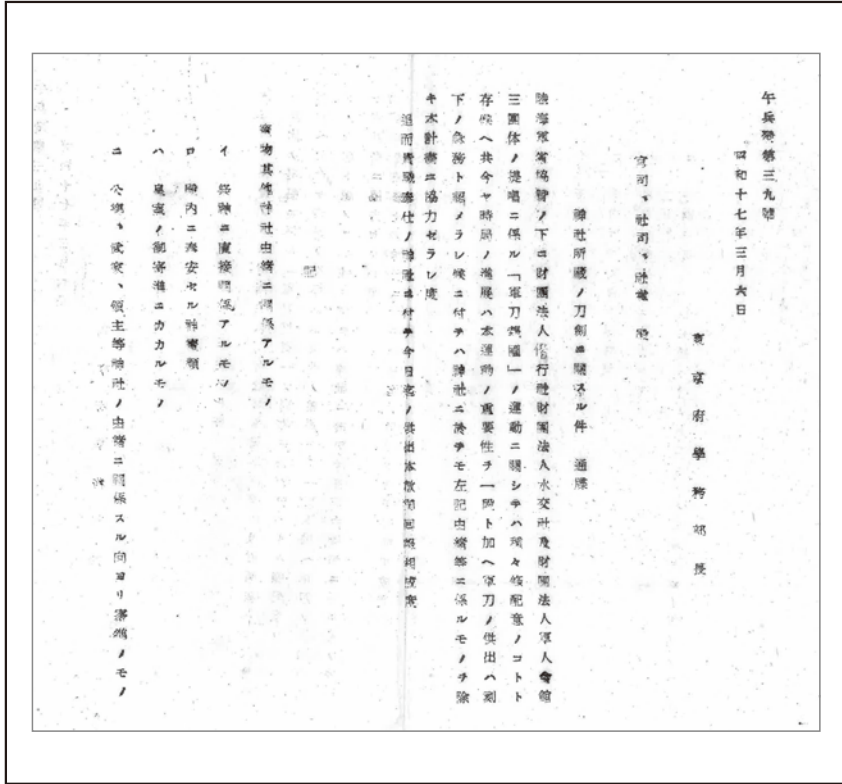
致に支障のない範囲での対応を求めらるるものであり、各神社に対し、速やかな報告を行うよう呼びかけられています。



### 神社所蔵の刀剣に関する件

昭和17年（1942年）3月に  
 発出されたこの通達は、陸海軍の  
 協力のもと、刀剣や武器などの神  
 社所蔵の物品を、軍需や国家運営  
 のために譲渡・提供するよう求め  
 たものです。

「軍刀報国」の精神のもと、軍  
 刀を通じて国に尽くすという思想  
 とともに、戦局を踏まえて国家資  
 源の有効活用的重要性が強調され  
 ています。

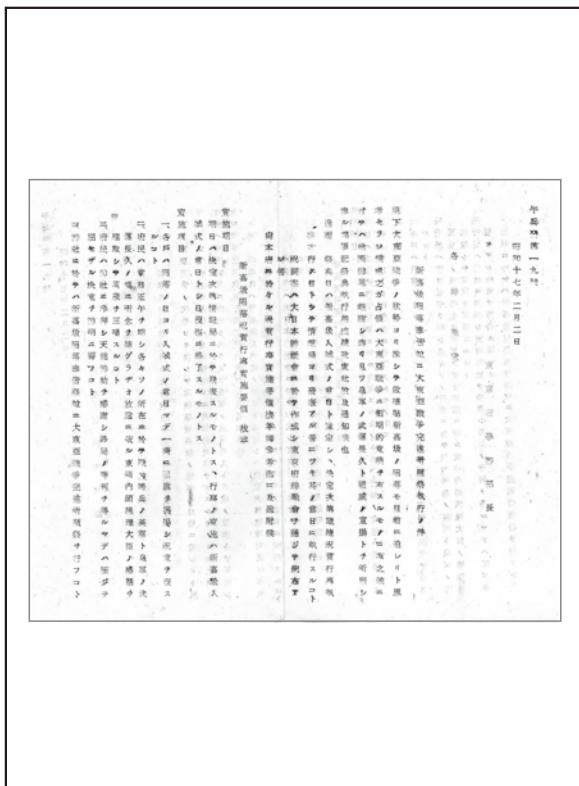


### シンガポール 新嘉坡陥落奉告・ 大東亜戦争完遂祈願祭の執行の件

こちらの通知は昭和17年（19  
 42年）2月2日に東京府学務部  
 長より通達されたものです。東京  
 府の学務部には社寺兵事課が置か  
 れ、神社行政などを担当していま  
 した。

この通知は、日本軍によるシン  
 ガポール（漢字表記：新嘉坡）攻略・  
 陥落が間近とのことを受けて発出  
 されたもので、その戦果を奉告し、今  
 後の戦争完遂と武運長久を祈願す  
 るための祭典を東京府鎮座の各神  
 社で実施するよう求めた通知です。

文中では、シンガポールの陥落  
 が大東亜戦争における重要な転機  
 であると捉えられており、国旗の  
 掲揚、東條英機内閣総理大臣によ  
 る感話のラジオ放送の聴取および  
 万歳三唱の実施、さらに各神社で  
 の奉告祭の斎行を通じて、国威の  
 発揚と戦意の高揚を図る意図が示  
 されています。



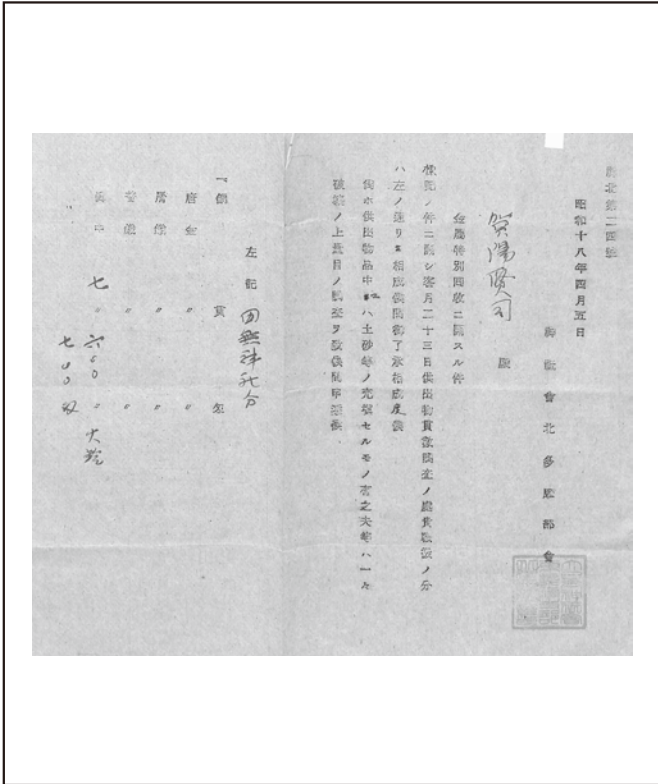
# 金属特別回収に 関する件

金属特別回収令により、田無神社では鈴や日露戦役記念碑前に設置されていた鉄棒を供出しました。現在、記念碑前の石組みに空いている穴は、その供出の名残りとされています。

この金属供出は、戦時中の金属資源不足を補うため、昭和16年（1941年）に公布された勅令に基づいて実施されたものです。戦局

の悪化に伴い、学校や公園からは人物の銅像が、神社からは像や狛犬などが供出されました。

文中に記載されている「真中7貫60匁大鈴」とは、真鍮製の鈴のことであり、1貫は約3・75kg、1匁は約3・75gであることから、約28・5kgもの大鈴が回収されたことがわかります。この重さから複数の大鈴を供出したことが推測できます。「真中（真中）」とは真鍮を意味し、銅と亜鉛を混ぜ合わせた合金を指します。



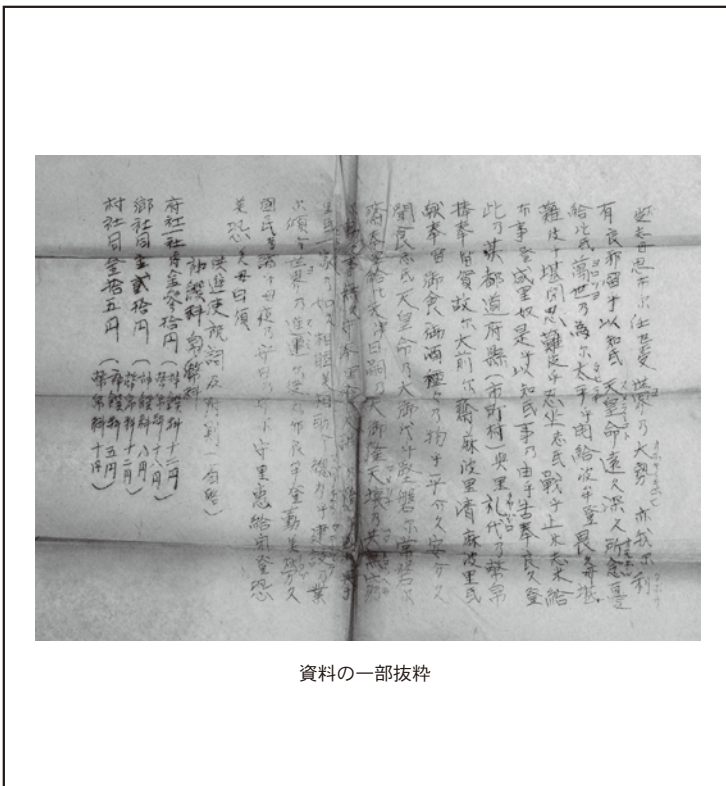
# 戦争終熄奉告祝詞

昭和20年（1945年）9月7日付の内務省令の発令を受けて、発出された「戦争終熄奉告祝詞」に関する通知文書です。

この通知では、祭典を祈年祭や新嘗祭と同様に、大祭式で斎行するよう指示されています。また、神社会から各神社へ幣帛料などが支給される旨も記載されています。

祝詞文中には、国を挙げて世界の進展（ススム）に後れを取ることのないよう、力を尽くして取り組む旨の誓いが述べられています。

昭和20年（1945年）8月30日、アメリカのマッカーサー司令官が日本に到着し、続く9月2日には東京湾に停泊していたアメリカの軍艦「ミズーリ号」の上で、日本が正式に降伏する文書にサインしました。これによって、すべての戦いが終わりました。



資料の一部抜粋

## 御本殿塗替記念札

この札は、西東京市住吉町に鎮座する尉殿神社において、昭和26年（1951年）9月に本殿の塗替工事が竣工したことを記念して製作されたものと考えられます。

令和7年（2025年）6月、戦後80年および昭和100年という節目の年に、74年ぶりとなる塗替工事が実施され、その際に尉殿神社本殿の屋根裏から発見されました。札の裏面に記されている「世界講和条約」とは、昭和26年（195



1年）9月に日本政府がアメリカやイギリスをはじめとする諸国と締結した、サンフランシスコ講和条約を指します。この条約によりアメリカの占領統治が終結し、日本は主権を回復して、独立国家として再出発することとなりました。

表面…「御本殿塗替記念」「昭和26年9月吉日」「神官 賀陽賢司」「塗装工 高橋太一」と記されています。

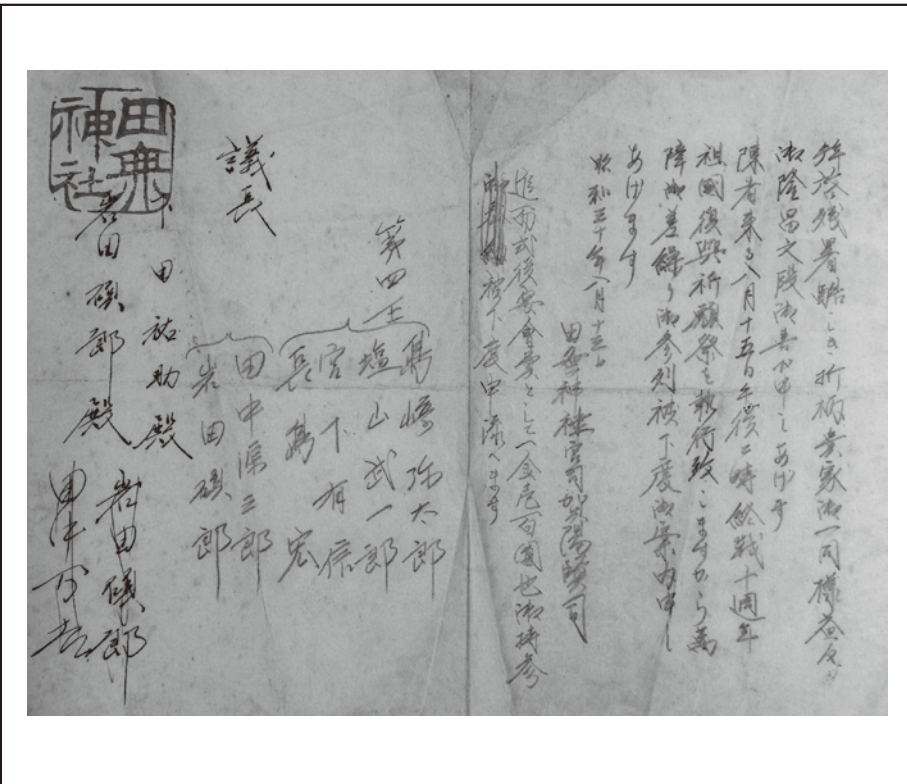
裏面…「記一 昭和21年、世界大戦に敗れ、以後米国の支配下ありたるも、昭和26年9月、世界講

和条約締結となりたるに付、日本再出発の為、平和記念として御本殿塗替す」と記されています。さらに、10名の氏子総代の名前が連なつて記載されています。

## 終戦10周年 祖国復興祈願祭

こちらは、昭和30年（1955年）8月15日に田無神社で斎行された「終戦十周年 祖国復興祈願祭」の

案内通知文書です。同年は終戦から10年という大きな節目の年にあたり、日本各地の神社でも復興祈願祭が執り行われました。田無神社では現在も、毎年8月15日に戦没者慰霊祭を斎行しております。

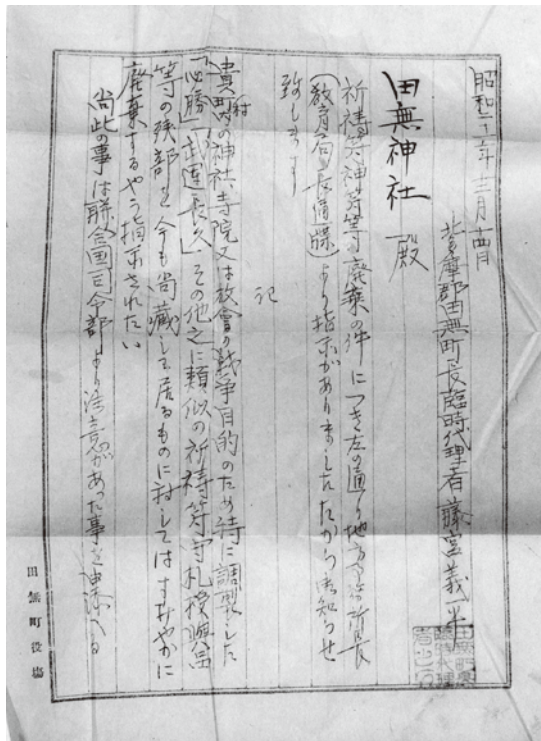


# GHQによる「必勝札・武運長久札」等の廃棄の指示

上段の資料は「田無町役場」から、願や武運長久祈願などの祭典で使われた資料は「神社本庁」から出された通知書です。いずれも昭和21年（1946年）に発せられたもので、戦時中に行われた必勝祈

願や武運長久祈願などの祭典で使  
用された札類の廃棄を指示する内  
容となっています。

「田無町役場」からの通知書には、  
「連合国司令部からの注意があつ



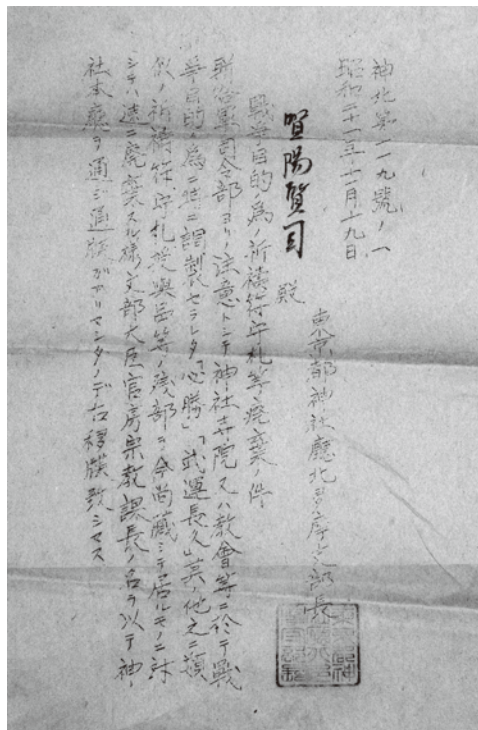
田無町役場から

たことを申し添える」との記載が見られます。

なお、昭和20年（1945年）12月15日に連合国軍総司令部（GHQ）が日本政府に発令した「神道指令」は、国家と神道を分離することを目的としたものでした。これにより、「国家神道」は解体

され、神社は国家の管理から離れ、宗教法人として独立することが求められました。

こうした必勝札や武運長久札の廃棄指示は、神道指令の間接的な影響として出されたものであると考えられます。



神社本庁から

## 教練銃

この木製の模擬銃には「田無国民学校」29」と印字されています。西東京市南町の矢ヶ崎邸の蔵から発見されたものです。当時、銃の取り扱いに慣れることを目的として、学校では軍事教練が行われていました。

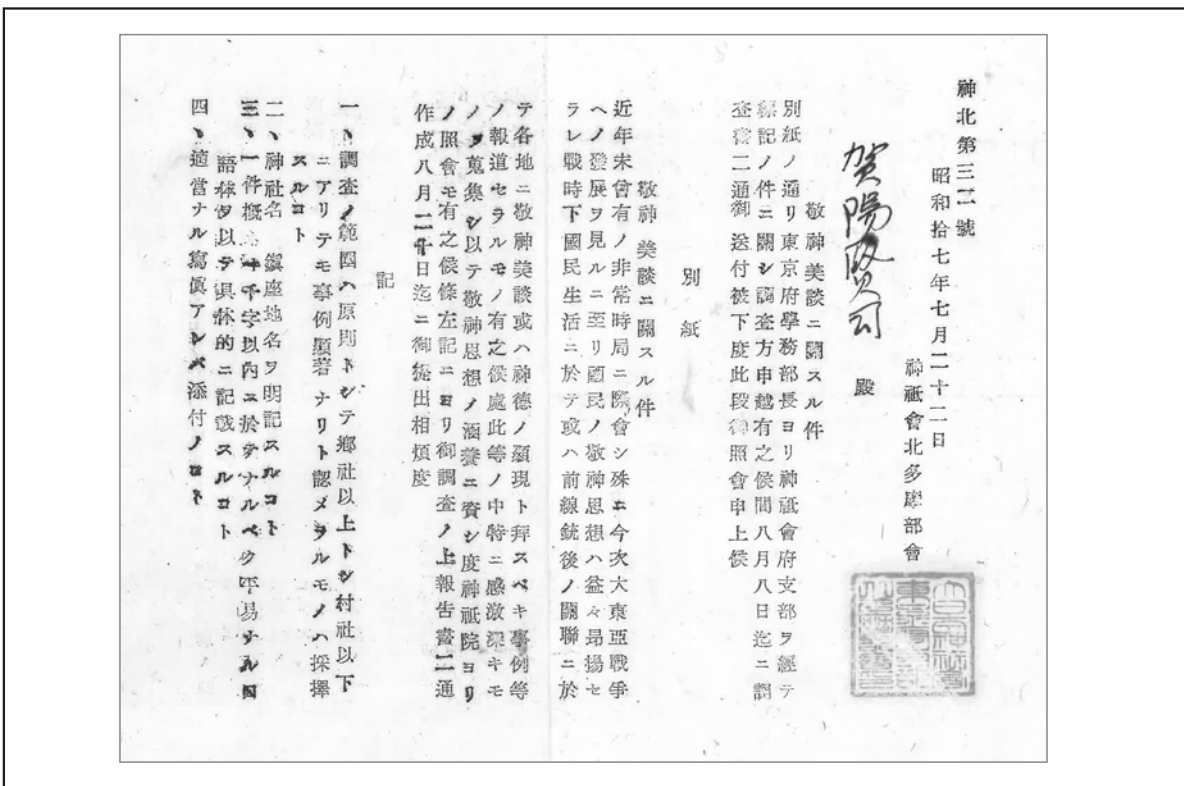


## 敬神美談に 関する件

この文書は、昭和17年（1942年）7月22日に東京府学務部から出された「敬神美談」に関する調査依頼です。

当時の戦時体制下において、国民が日常生活や戦争協力の中で、いかに「神を敬う心」を実際に行動として示しているかを収集し、感動的な事例として報告するよう、各神社に求めたものです。依頼の内容は、可能であれば該当する写真の添付も併せて提出するよう指示しており、調査対象は特に「郷社」以上の社格を持つ神社とされています。

こうした「敬神美談」は、いわば戦時下における精神的支柱や模範事例として強調され、いわゆる軍国美談と同様に、銃後のプロパガンダの要素を強く帯びていました。「軍国美談」は学校の教科書や新聞、雑誌などにも盛んに取り上げられ、国民に広く伝えられていったのです。



# 戦争を越えて 田無を語る

下田信助(語り)  
賀陽智之(インタビュアー)  
平田美保(ハレル舎)(執筆)

賀陽——本日はお時間をいただき、ありがとうございます。下田信助さんは、昭和45年(1970年)から田無神社の宮世話人を務め、長年にわたり神輿渡御に携わってこられました。それではまず、昔の田無の様子について教えてくださいませんか。

下田——私の家は青梅街道沿いで、代々宿屋を営んでいました。さらにその昔は田無村の名主でもありました。それは下田半兵衛さんの時代よりも前のことです。その当時の家は上宿にありました。

賀陽——田無村は宿場町として発展してきました。青梅街道は江戸時代初期、江戸城改築のための石灰を青梅から運ぶ道として整備されました。天保5年(1834年)の案内書『御嶽青笠』には「柳澤宿」として、下田さんのご先祖が営んでいた「田丸屋」が紹介されています。この辺りは田無村の

東の入口にあたり、青梅街道と現在の所沢街道の追分に位置して旅館屋が並び、大変賑わいました。その中でも下田家の「田丸屋」は有名でした。

下田——父が出征したのをきっかけに、昭和3年(1928年)から酒屋を始めました。戦争で一度店を閉じ、その後、昭和24年(1949年)頃に再び酒屋を始めました。その当時は番頭さんが7人もいました。場所が広がったので学生の下宿のような役割も果たしていました。近所にはまだ畑が多く、商店といっても今のようによく煌々としたものではなく、木造の建物が並ぶ静かな町でした。神社の方から流れてきた田無用水があり、池や滝もあって、それらは昭和の末頃まで残っていましたね。

賀陽——下田さんは昭和15年(1940年)にお生まれで、5歳で

終戦を迎えられました。戦争当時の田無の様子を覚えていらっしゃいますか。

下田——父は明治37年(1904年)生まれで、昭和13年(1938年)に陸軍として小笠原に出兵しました。しかし長男だったせいか、すぐに上官と共に戻ってきました。その後、硫黄島へ行った隊員もいたので、本当に生きるか死ぬかの運命の分かれ目でした。それ以降、父が戦地に行くことはなかったようです。祖父は日露戦争で従軍していました。私は昭和15年(1940年)に生まれました。当時の田無には軍需工場が多くありました。トロツコを境に田無と保谷の子どもたちが石を投げ合い、陣取り合戦のように遊んでいました。場所は今のクリストロアの裏あたりです。トロツコは杭を抜きながら移動するので、増設や撤収が早く、終戦後には朝起きたら線路がなくなっていたということもありました。戦争が激しくなると疎開する家が増え、一緒に遊ぶ子どもも少なくなりました。そんなときは、可愛がってくれたおばさんに知り合いの家へ連れて行ってもらい、その子どもと遊んでいました。父は空襲の際、南町の監

視所に詰めて、空襲警報を伝える役割を担っていました。

賀陽——昭和20年(1945年)4月12日、B29による空襲では大きな被害がありました。その日のことを覚えていらっしゃいますか。

下田——幼かったのですが、はっきり覚えていません。敷地内に防空壕があり、家族で避難しました。二間ほどの広さで赤土を掘り、柱を立てた造りでしたが、壁が「ザザザー、ダダダー」と揺れ、潰れるのではと思うほどの衝撃でした。爆撃地からは離れていたのに風の勢いがすさまじかったです。

賀陽——周囲で犠牲になった方はいらっしゃいましたか。

下田——よく遊びに連れて行ってくれたおばさんの知り合いの母子が亡くなりました。母と姉と總持寺に確認に行きました。境内には遺体が並び、母と姉がむしろを一枚ずつめくって顔を確認していくのを横で見っていました。その母子も見つかりましたが、泥と瓦礫にまみれて誰か分からないほどの状態でした。その記憶は今も脳裏に焼き付いています。旦那さんは生き残ったそうです。

**賀陽**——4月12日は現在「西東京市平和の日」となっています。總持寺の山門近くには慰霊塔もあります。当時、軍需工場が多かったために、攻撃もたびたびあったのですね。

**下田**——ええ、そうです。今のガスタンクの裏にあった朝比奈鉄工所で働いていた従兄弟は、防空壕に入つて犠牲になりました。上官に「家に帰れ」と指示された人たちは助かりましたが、「防空壕に入れ」と言われた生徒は亡くなりました。爆撃の衝撃で空気が体の穴という穴から入り、遺体は膨れ上がつて判別できなかつたとい

います。

**賀陽**——戦後、町や神社の様子はどう変わつていきましたか。

**下田**——戦後まもなく神輿が再開されました。神社には山車もあり、曳き回しも行われていました。が、とても素朴なお祭りでした。以前は神輿を担ぐとお酒や団子、お饅頭が振る舞われましたが、戦後すぐは食べ物がなく何も出ませんでした。それでも夏の津嶋の天王祭では神輿をぶつけ合い、活気

がありました。神社の坂下から田丸屋までの道では、田無1区と田無2区の神輿が喧嘩神輿になりました。当時は男子が少なく、女子は担ぎ手に「キヤーキヤー」声援を送っていました。あるとき神輿とジープが狭い道で鉢合わせになり、担ぎ手の若者がジープを足で押さえて神輿を守りましたが、その責任を問われて役員が逮捕されたこともあつたそうです。また、戦前には父が神社で賀陽賢司宮司から祝詞の読み方を教わつていてと聞いています。

**賀陽**——本社神輿は昭和22年（1947年）に奉納されました。復興事業として昭和21年（1946年）には神輿を新調する計画もありましたが、無許可での募金とされ奉納金が一時没収されたこともありました。戦後の田無でアメリカ力兵を見かけることはありましか。

**下田**——戦後しばらくするとGHQが町に来ました。チョコレートを配る姿は見たことがあります。せんが、ある日、父が店先にバラの苗を飾っていたところ、米兵がジープで来て「売ってくれ」と言いました。通訳も米兵で、とても

流暢な日本語でした。隣にあつた一升瓶ほどの「田丸屋」と書かれた徳利（とっくり）にも興味を示し、「これも売ってくれ」と言つたそうです。「何に使うのか」と尋ねると「ランプにする」と答えたとか。通訳の米兵が「田丸屋」の漢字を讀めたことに驚きました。米兵は上官で、代金もきちんと払い、礼儀正しかったです。また立川基地に通う米兵が日本人女性と田丸屋近くに住んでおり、よく挨拶をしてくれました。帰国の際には家と土地をその女性に譲つたと聞きました。

**賀陽**——その後、町の復興を実感する出来事はありましたか。

**下田**——近くに寿自動車ができたくともあり、少し上の世代の人たちが集まつてバイクでツーリングしていました。寿自動車の2階にはテレビが置かれ、所沢街道沿いはテレビを見たくて人だかりができました。遠藤歯科さんも庭を開放してテレビを置いてくれたのを覚えてます。酒屋としては樽で酒が納品されて、瓶が不足して困りました。親戚が小金井で酒屋を営んでいたの、リアカーで瓶を運んだこともあり。扱つて

いたのはほとんど焼酎でした。日本酒は高価でした。ビールが出るのはもつと後のことでした。

**賀陽**——本日は貴重なお話をありがとうございました。戦中戦後の困難を乗り越え、今日の町の姿へと繋がっていることを改めて感じました。心より感謝申し上げます。

※1) 名主の下田次郎左衛門は柳澤に転出し、名を富右衛門と改め、安永9年（1780年）に旅籠の田丸屋を創業します。

※2) 父島と母島には、太平洋における中継基地として、陸軍・海軍の部隊が数多く配置されました。

※3) 下田氏が「下ロッコ」と呼んでいるものは、1944年からおよそ1年間運行していたと伝えられる軽便鉄道のことです。谷戸にあつた中島航空金属は、中島飛行機株式会社関連工場で、鑄造や鍛造によつて航空機エンジンの部品を製造していました。この中島航空金属と中島飛行機武蔵製作所を結んでいたのが軍用の軽便鉄道です。当時を偲はせる遺構として、遊水池の東側に小さなガードがあり、これが軽便鉄道専用施設に設けられたものとして知られています。

## 神社からのお知らせ

### 兼務社例大祭のご案内

阿波洲神社では9月7日(日)午後2時、尉殿神社では10月1日(水)午後1時、下保谷天神社では10月11日(土)午後2時に、例大祭における本宮祭が斎行されます。

どうぞ例大祭にあわせてご参拝ください。



阿波洲神社奉納民謡踊り

### 西の市

11月12日(水)「二の酉」、11月24日(月)「二の酉」の日程で、西の市(熊手市)を開催いたします。一の酉・二の酉ともに、午後9時

より社殿にて「大酉祭」の祭事を執り行います。

両日とも、境内は熊手屋や各種出店で賑わいます。ぜひ西の市(熊手市)にお越しください。

【時間】 正午～午後10時

### 新嘗祭

新嘗祭は、宮中恒例祭典の中でも最も重要なものであり、現在でも天皇陛下自らお育てになった新穀をお供えになります。

田無神社や保谷三社においても、稲の収穫を祝い、翌年の豊穡を祈願する新嘗祭を斎行いたします。

### 【斎行日程】

- ・ 田無神社 11月23日(日) 午前10時～
- ・ 尉殿神社 11月23日(日) 午後1時～
- ・ 天神社 11月23日(日) 午後2時～
- ・ 阿波洲神社 11月23日(日) 午後2時～

### 絵馬デザインコンテスト

田無神社干支絵馬デザインコンテストの作品募集は、8月31日(日)をもって締め切りました。西東京市をはじめ、全国各地から数多くのご応募をいただきました。作品は9月中旬、切絵作家・小

出菟氏、漫画家・クロマツテツロウ氏を選考委員に迎え、厳正な審査を行い、入賞4名、入選25名を選出する予定です。

全国から寄せられた応募作品の中から、入賞された4名の方の作品は、9月下旬に田無神社公式ホームページにて発表いたします。また、入賞・入選作品は、10月上旬に「田無ASTA(アスタ)」2センターコートにて展示を予定しております。

### 七五三参り

田無神社において、立派に成長されたお子様の姿を神様にご覧いただき、これまでの成長への感謝と、今後の健やかな成長をお祈りいたします。

ご祈祷の予約は不要です。お申込み順にご案内いたします。混雑期には、15～30分ほどお待ちいただく場合がございます。

初穂料は5,000円・10,000円・20,000円以上の3種類をご用意しております。ご祈祷の内容は同一ですが、授与品やお札の大きさなどに違いがございます。

【ご祈祷受付時間】 午前9時～午後4時

### 田無神社ラジオ

F M西東京で放送中の「田無神社ラジオ」が、いよいよ9年目に突入し、7月18日放送回では、節目となる通算100回目の放送を迎えました。「田無神社ラジオ」は、宮司・賀陽智之がゲストをお迎えし、お話を伺いながら、このまちな魅力を語り合い、これからのまちのあり方を考える番組です。

放送は毎月第3金曜日の午後1時～午後1時30分(生放送)です。ぜひご聴取ください。



放送100回ゲスト木村純子さん

### お正月縁起物

初詣の分散参拝の観点から、破魔矢などの縁起物を令和7年12月

1日(月)より頒布いたします。  
 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染拡大防止のため、令和8年の初詣は大晦日や三が日などの混雑する日を避け、分散参拝にご協力ください。



卓上破魔矢

神社de献血

10月13日(月・祝)に国登録有形文化財の田無神社参集殿において、献血会を実施します。輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救うため、献血にご協力をお願いします。

日時：10月13日(月・祝)

午前11時～午後3時30分

場所：田無神社 参集殿

旧例祭日

9月19日(金)は田無神社の旧例祭日です。午後2時15分から摂社の龍神社(黒・白・赤・青)の例祭祭典(五龍神祭)を執り行います。どなたでもご参列できますのでどうぞご参拝ください。

一楽萬開札

「令和8年の吉方は南」

11月23日(新嘗祭)から2月3日(節分祭)までの期間、田無神社社務所にて「一楽萬開札」を授与いたします。お受けになりました札は、その年の吉方にお祀りください。

一楽萬開札を受けることで、龍神様より「最初の楽」をいただけることとされています。この最初の楽を「一楽」と呼び、一つの楽が次の楽を呼び、さらに楽が重なり集まることで「萬の道」、すなわち人生が大きく開かれる——これを「二楽萬開」といいます。



一楽萬開札

表彰

このたび田無神社では、中村晋也殿ならびに藤野袈羅殿を表彰し、感謝状をお渡しいたしました。

中村晋也殿は、卓越した技術力をもって社務の効率化推進に寄与されるとともに、「だがしの日」をはじめとする諸行事にも積極的に取り組まれました。

藤野袈羅殿は、生前、長年にわたり田無神社奉仕団として境内清掃などに尽力され、御神前の清浄保持と環境整備に大きく貢献されました。

「奉納について」

三和建装株式会社 元角好子殿は、平素より敬神の念篤く、田無神社の護持発展に深いご理解とご尽力を賜っております。このたび、当神社の祭祀・境内整備等の充実を願われ、金五十万円をご奉納くださいました。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、そのご厚志に対し、心より感謝申し上げます。

公式HPリニューアルのご案内

このたび、田無神社の公式ホームページを、実に13年ぶりに全面リニューアルいたします。

新しいホームページでは、境内のお社や四季折々の風景、祭礼や行事の様子を数多くの写真で紹介し、より一層神社の魅力を感じていただける内容となっております。

また、神社の歴史や由緒、祭典に込められた意味をわかりやすくお伝えする記事も充実させ、初めてご参拝くださる方にも、地域に根差してお参りいただいている方にも、幅広くご覧いただける構成となっております。

ぜひ新しくなった公式ホームページを通じて、田無神社の歩みや日々の営みをご覧いただき、より身近に感じていただければ幸いです。



秋限定の切り絵御朱印

田無神社では、9月1日(月)から11月30日(日)までの期間、秋限定の切り絵の御朱印を頒布いたします。イチヨウの葉に白龍をあしらった切り絵御朱印で、季節ならではの趣をお楽しみいただけます。初穂料は1,500円です。

西東京市の祭り太鼓



明治13年奉製 尉殿神社大太鼓



昭和8年奉製 天神社大太鼓 (令和6年修繕)



明治21年奉製 向台大太鼓 (修繕前)



明治21年奉製 向台大太鼓 (令和4年修繕)



昭和17年奉製 田無神社宮太鼓



昭和17年奉製 田無神社宮太鼓



昭和17年奉製 田無神社宮太鼓と本社神輿



令和7年 新調した田無神社宮太鼓の曳き車